

第2回

台東区総合教育会議

(平成27年5月27日)

台東区総務課

日 時 平成27年5月27日(水)午後1時00分から午後2時01分

場 所 庁議室

構 成 員

区	長	服部	征夫
委	員	長	高森 大乘
委員	長職務代理者		垣内恵美子
委	員	末廣	照純
委	員	樋口	清秀
教	育	長	和田 人志

関 係 職 員

企 画 財 政 部 長	佐藤	徳久
企 画 課 長	酒井	まり
総 務 部 長	矢下	薫
総 務 部 参 事	内田	健一
教育委員会事務局次長	神部	忠夫
生涯学習推進担当部長	上野	俊一
庶 務 課 長	柴崎	次郎
指 導 課 長	屋代	弘一
教育改革担当課長	江田	真朗

日 程

- 1 議長挨拶
- 2 台東区教育大綱の策定について

< 配布物 >

- ・ 台東区教育大綱(案)

午後1時00分 開会

内田総務部参事 それでは、これより第2回台東区総合教育会議を開会させていただきます。

事務局を務めております総務部参事の内田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、次第に入ります前に皆様にお諮りいたします。

この総合教育会議は、原則として公開することとなっておりますが、本日提出される傍聴願について許可いたしたいと存じますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

内田総務部参事 それでは、ご異議はございませんので傍聴を許可いたします。

なお、当会議の会議録を作成のため録音をさせていただいておりますので、ご了承いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、今回、職員に異動がありましたので、ご紹介をさせていただきます。

企画財政部長、佐藤でございます。

企画課長、酒井でございます。

それでは改めまして、開会に当たり、会議の議長であります服部区長よりご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

服部区長 本日はお暑い中、またお忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

第2回目の開催となります台東区総合教育会議でございます。

前回の会議では、教育委員会の皆様と意見交換をできたことは、大変有意義でありました。また、連携強化の必要性を認識できる機会でもございました。

本日は、大綱の素案ができましたので、皆様の活発なご議論をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

内田総務部参事 ありがとうございます。

それでは、早速ですが次第の2、台東区教育大綱の策定についてでございます。

この点につきましては、教育改革担当課長からご説明を申し上げます。

では江田課長、よろしくお願いいたします。

江田教育改革担当課長 教育改革担当課長江田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、台東区教育大綱(案)について説明をさせていただきます。

初めに、前回5月19日に行われました第1回の総合教育会議の概要について、報告をさせていただきます。

お手元に、当日配付された資料4、別紙1、別紙2がございますので、あわせてご覧いただきながらと思います。

大綱の基本的な考え方でございますが、大綱は、今後の教育行政の大方針というべき

もので、首長が総合教育会議で教育委員会と協議し策定することになっております。

大綱の位置づけは、現行の教育行政に関する目標、基本方針、計画の上位になるもので、大綱の内容を実現するためのものとして、目標、基本方針、計画が大綱の下に位置づくと考えております。別紙1にその図が掲載されております。

これまで教育委員会では、現行の教育委員会の目標、基本方針、学校教育ビジョンなどの教育振興基本計画に基づき、学校教育、生涯学習、就学前教育、保育に取り組み、一定の成果を積み上げてきました。そのため、今回の大綱案についても、教育行政の継続性や国の考え方との整合、具体的には教育振興基本計画を策定する際の4つの参酌事項となっておりますが、そのような観点から、現行の教育委員会の教育目標や基本方針、教育振興基本計画の内容や国の参酌項目を踏まえた内容としております。

そして、前回の総合教育会議で委員の皆様から、これまでの台東区の歴史、文化、伝統の尊重とともに、新たな価値を創造し地域や社会に貢献する人材の育成や、変化が大きいこれからの社会を生き抜く力の育成、教師への尊敬と信頼、多様な学習機会と学びの環境の充実、家庭や地域社会との絆づくりと活力あるコミュニティの形成など、具体的な事例を交えながらご意見をいただきました。

それでは、本日お示しさせていただいた、台東区教育大綱（案）について説明させていただきます。資料をご覧ください。

まず、三段落ある前文について、説明いたします。

前回の総合教育会議において、大綱の構成案についてご検討をいただきました。前文の第一段落は、台東区の特性を示しているものであり、「台東区は、上野、浅草、谷中、隅田川など歴史と伝統に恵まれた地域を擁し、情緒ある個性豊かな文化を育んできたまちです。日々のにぎわいある暮らしの中で、子供からお年寄りまで様々な世代が下町ならではの心意気と人情で支え合っています。」とさせていただきます。

第二段落は、台東区の特性を活かした現在の教育の取組を示したもので、「今、本区では、こうしたかけがえのない財産を活かし、『教育はひとつづくり』の観点から、台東区のまち全体を人が成長するための環境『学びのキャンパス』としてとらえ、学校、家庭、地域の信頼と支え合いの中で、将来の台東区を担うひとつづくりを推進しています。」とさせていただきます。

第三段落では、今後の方向性を示す内容としており、「今後も、この施策をさらに充実させ、地域に支えられたひとつづくりが、未来の台東区を築く人材を育むとともに、さらに住みよい躍進するまちづくりへと結びつくよう、次の項目に取り組みます。」とさせていただきます。

続きまして、後段の5項目について説明させていただきます。それぞれの項目にキーワードとなるタイトルをつけ、2行程度の説明文において表現いたしました。

初めの「温故創新とこころざし」においては、「台東区の歴史、文化を尊重し、伝統・技能を継承するとともに、こころざしを立て、新たな地域や社会を創造するひとつづく

りを進めます。」としました。

前回の総合教育会議において、委員の皆様からのご意見で、台東区の特徴である歴史、伝統、文化の尊重と継承や、道徳の特別教科化への対応、こころざし教育の推進、台東区の特徴である地場産業との関連による仕事力の育成なども含まれており、区長から出されました温故創新という言葉を表題に掲げました。

次に、「自立と支え合い」では、「生涯を通じて自立し、他者を尊重し共に支え合い、変化が大きい社会を生き抜く力を培います。」とし、教育委員会の教育目標、互いの人格を尊重し思いやりの心と規範意識を持つ人や、基本方針の人権尊重の精神の育成のさらなる推進を、教育大綱に位置づけたものです。

3項目めの「教育における信頼と尊敬」では、「教育に携わる教師・保育士の資質向上をたゆまず図り、子供たちや保護者、地域からより信頼され尊敬される人材育成を行います。」としました。

教育への信頼がゆるぎ始めている今日にあって、学校教育への信頼はもとより、尊敬される教師・保育士を育成する人材育成を進めていくことを狙いとして項目立てしたものです。

4項目めの「自己実現と環境整備」では、「区民一人ひとりが心豊かに生涯を送れるよう、いつでも、どこでも、ライフステージに応じた学びの環境を整備します。」としました。

台東区独自の取組でもある幼児教育共通カリキュラムを活用した就学前教育、そして小中学校における学校教育、義務教育終了後の生涯学習など、ライフステージに応じた学びの環境を整備していくというものです。

最後に「絆と地域力」では、「家庭や地域社会の絆を大切にし、活力あるコミュニティの形成に努め、地域力を高めます。」としました。

この項目も、前回の総合教育会議で、多くの委員からご意見をいただいた点でございます。中でも、PTAや町内会、商店街などの方々が団結して子どもたちを見守っているというご意見や、区長は家庭の絆の重要性についても触れられています。それらの観点から、大綱に位置づけました。

なお、この台東区教育大綱（案）は、国の教育振興基本計画に提示された参酌する4項目についての関連が図られております。

以上で説明を終わらせていただきます。

内田総務部参事 ありがとうございます。

前回の会議のご意見等を踏まえて、今回、台東区教育大綱（案）をお示しさせていただきました。

各委員の方から、ご意見を頂戴いたしましたと思います。よろしくお願いたします。

服部区長 よろしくお願いたします。

樋口教育委員 まず、私の感想ですけれども、「台東区の歴史、文化を尊重し、伝統・

技能を継承する」という、まず第1項目でございますが、大綱は、片仮名文字ではなくて漢字でなるべく表現するようにされたいかと思えます。

例えば、ライフステージ及びコミュニティですが、ライフステージは「生活に応じた」でよろしいのではないかと。その一方でコミュニティは、その下に地域力がありますので、これは「地域社会の形成に努め」でよろしいのではないかと。このほうが読みやすい形になるだろうと思えます。

次に、「尊敬」のところですが、強制的な表現が強いのではないかという感じがします。これは「尊敬される」のではなくて、「尊敬の念を持たれる人材」くらいにされたいかと思えます。

次に、2項目めの「自立と支え合い」でございますが、既に教育委員会の基本方針の中に「自己実現」という言葉を使用しておりますので、ここは「生涯を通じて自立」よりも「生涯を通じて自己実現を図っていくとともに、他者を尊重し共に支え合い、変化が大きい社会に対して生き抜く力を培う」というようにされたいかでしょうか。「自立」と「支え合い」というのは、日本語の表現として、並列ではなく少し離れたほうがいいと思えます。

以上です。

内田総務部参事 ありがとうございます。

頂いたご意見について、教育委員会はなにかありますか。

江田教育改革担当課長 樋口委員からありました、「ライフステージ」や「コミュニティ」の横文字の使い方でございますが、いい表現があるかどうか検討させていただきます。

2項目めの「自立」のところ、「自己実現」という言葉を使用いたしますと、4項目めでも「自己実現」という言葉を使用していますので、他の表現があるかどうか検討させていただきます。

以上でございます。

内田総務部参事 この点について、いかがでしょうか。「生涯を通じて自立し」ではなく、「生涯を通じて自己実現し」という表現ではいかがかとご指摘をいただきましたが、4項目めでも「自己実現」を使用しているので、重複してしまうということではよろしいですか。

樋口教育委員 4項目めの「自己実現」は、ここは自己実現のための環境整備という意味で、自分で自己を実現するような表現にはなってはいません。本来、「自己実現」は2項目めの「自立と支え合い」に入れるべきではないかと思えます。

ここは言葉を調整した方がいいと思えますが、どうでしょうか。

内田総務部参事 ありがとうございます。

この点については、検討しますか。

江田教育改革担当課長 はい。

内田総務部参事 ご指摘の片仮名表記の「ライフステージ」及び「コミュニティ」は、

漢字での表記にしたほうがいいということでございますが、この点はよろしいでしょうか。

例えばですが、「ライフステージ」については「生活に応じた」又は「時代に応じた」とさまざまな表現があると思います。また、「コミュニティ」につきましては、タイトルに「地域力」という表現がございますので、「地域社会」という表現に変更とのご指摘をいただきましたが、よろしいでしょうか。

次に、「自己実現」のところにつきましては、教育委員会で検討されるということでしょうか。

和田教育長 「自己実現」の件につきましては、確かに全体の文脈の中での使い方として、一部重複を感じる箇所もございますので、ここは文言の整理をしてはいかかかと思えます。

神部次長 教育長からお話しいただきましたように、「自己実現」は「自立と支え合い」に含まれるとのご議論をいただきましたので、そちらで整理させていただきます。

4項目めの「自己実現と環境整備」は、生活と学びの環境の場の整備という意味合いにお話しいただきましたので、そういう方向で整理させていただきます。

和田教育長 片仮名表記の件でございますけれども、これについては確かにご指摘の部分がありますし、台東区らしさということに鑑みれば、おっしゃる意味も大変よくわかります。

ただ、ライフステージという言葉は一般化してきている部分がありますので、使われ方について調べた上で、どちらかに統一をさせていただければと思います。

内田総務部参事 「コミュニティ」などの片仮名文字は漢字かどうかも含めて使い方を検討をいたしますか。

和田教育長 谷中の防災コミュニティセンターにもありますように、台東区は、まさに内山区長の時代から、「コミュニティ」という言葉がかなり定着しているという現実がございますので、それも踏まえて選ばせていただければと思います。

垣内教育委員長職務代理者 文化や伝統は、古いものをずっと守っていただくだけではなく、新しいものを取り入れながら定着させていくという部分もありますので、教育長がおっしゃった点を踏まえると、「コミュニティ」という言葉を継続してお使いになるのもいいと思います。

「学びのキャンパス」についても区民の方が読まれたときに、よりわかりやすいほうを選んでいただければと思います。

全体像に戻らせていただいて、前回もいろいろお話をさせていただきましたけれども、台東区のメリット、強みということをきちんと踏まえた大綱になっているのかなということで、私自身は非常に高く評価させていただきます。

骨格も非常に目配りがきいておりまして、よくわかるものになっておりますし、非常によくできた原案ではないかと考えております。

ただ、言葉について。一つ目の「温故創新とこころざし」、これも新しい言葉を入れて、

新しい概念を提示しようということで、非常にすぐれたメッセージ性を持つ文言になっていると思うのですが、文面の「伝統・技能を継承する」というところですが、これは「発展」といいますか、さらにこれを継続していくという意味での新しい価値も生み出すという部分も、少し加えていただければと思います。

これは、別紙2の基本方針の教育委員会の決定のところに「発展」という言葉が入っているものですから、別にこの言葉自身にこだわるわけではないですが、継承するだけではなくて、新しくつくっていく。この「温故創新」の部分で少し体現するような言葉をお考えいただければというのが1点。

それから、「新たな地域や社会を創造する」という点ですが、これも連続性がある話ですので、むしろ、「よりよい」といった継続性を盛り込んだ言葉を入れていただけるといいと思います。

新しい価値は常につくっていかなければ、100年後、200年後の伝統につながっていかないものですから、その部分を盛り込むような形で、文言調整をしていただければと思います。

それから、その二つ下の、「教育における信頼と尊敬」ですが、これは確かに書かれているとおりに思うのですが、台東区の一つの特性は、学校の先生はすぐれていらっしゃるし、きちんと活動されているのですが、それを支えている保護者、地域が、それぞれ立場は違いますが、同じ思いを共有して同等の立場で言い合い、それをまた、現場の先生が受け止めることによって、うまくいっているのではないかと非常に強く感じます。

この「尊敬」の部分もいいのですが、「協働」というのですか、資質向上をたゆまず図っていただき、信頼されて協働できる、そして結果として、尊敬の念を持たれるという流れになると思いますので、そこに一言、皆さんと一緒につくっていくという部分を入れていただければと思います。

現場の先生方、地域の方々、それからPTAの方々と信頼関係が非常に強くて、お互いに信頼し合っていて、お互いに尊敬し合っているところが、非常に感銘をうけるところでありまして、そこがにじみ出るといいと思いました。

以上です。

内田総務部参事 ありがとうございます。

今のご指摘の部分は、いかがでしょうか。

江田教育改革担当課長 最初に「温故創新」のところで、継承の使い方と2行目の言葉の使い方の案を、垣内委員のほうからいただきました。

「温故創新」の言葉を使ったからには、やはり継承だけではなく、さらに発展させていくという、事務局の考えもありますので、そういった言葉を入れ、「温故創新」が活きるようにしたいと思います。

次に、「協働」ということですが、みんなで作って、それで資質向上を図りながら進めていく。そして最後は信頼され、尊敬の念をもたれるという流れにということでは

けれども、替案がすぐ出せずに申し訳ございませんが、言葉の使い方をいい意味でアピールできるような文にしていきたいと思っております。

和田教育長 ただいまの垣内委員のご指摘の中で、大変そのとおりだと思ったのですが、温故創新のところ、この案文には、「地域や社会を創造する」という形にしていますけれども、今のご指摘は、それとともに、やはり「新たな価値を生み出す」、「創造する」と、そういう意味が入ればよろしいのでしょうか。そういう形であると理解をしたつもりであります。

また、先ほど尊敬の部分で、「協働」というお話がございました。これは、ご指摘の中で、私がこれを読んで思いましたのは、台東区の場合に、それぞれの項目の中に、いわゆる地域の中での協働、互いに力を合わせあってというところが、前文とともに全編に流れているような感じもしますので、あえてここで入れなくてもいいと思いました。私の意見でございます。

末廣教育委員 今の教育長さんのお話につながるのですが、前文の部分で、「支え合っています」や、「支え合いの中で」、「支えられた」とすべてに入ってきているので、それは、教育長さんの思いがこういうところに入っているかと思えます。そういう意味では、「協働」の意味合いが大変濃い大綱になっていると思えます。

また、「新たな地域や社会を創造する」という点は、新しい価値を創造していくということだと思っておりますが、今までは地域や社会に対して貢献するという、そういう人材を養成しようという意味合いが大分あったと思うのですが、具体的にそういう趣旨が全体的に欠けているのではないかと思います。

「絆と地域力」のところに、「形成に努め、地域力を高め」とありますけれども、やはり下町の地域、あるいは社会に対する貢献が、非常に重要であると思っておりますので、そういう意味合いも入ってくればいいと思えます。

内田総務部参事 ありがとうございます。

「絆と地域力」のところでなにかありますか。

江田教育改革担当課長 事務局の中でも打ち合わせをしまして、ここの「温故創新ところざし」の中に「貢献する」という文言も候補としてありました。

しかし、前回の総合教育会議のときに服部区長のご挨拶の中に、「躍進台東」というフレーズがございましたが、新しい台東区を築き上げるというところを踏まえて、「貢献する」からさらに一步を進めて、「創造する」というような言葉にしたという経緯があります。

今、末廣委員がおっしゃった部分については、最後の「絆と地域力」のところで、その点を踏まえながら、大綱の中では位置づけていけると考えている次第です。

樋口教育委員 先ほどのお話の中で、「新たな価値」という話をされましたが、「新たな価値」というと、これは経済学の経済社会における活力論の一つで、新たな価値創造論というものがあります。歴史、文化、地域社会の議論の中で「活力ある社会」とすると、

歴史、文化が含まれますが、「新たな価値の創造」としてしまうと、経済学では付加価値をもっと高めるように何かをしなければいけないということになりかねない。

つまり、ここで経済を活性化させる意味を持つ「新たな価値」という表現にすると、活性化の意味合いが狭くなると思います。「新たな価値の創造」という言い方をされるときには、書き手にとって、ないしはこちらから出す立場にとっては、経済発展の意識を持って表現されるなら、それはそれでよろしいのですが、そうではなくて、みんなが社会を豊かにするためのという、心豊かなという場合には、「価値」とは違う言葉を使ったほうがよろしいと思います。

内田総務部参事 ここは、その経済的な話よりも、温故創新、台東区の歴史とか、そういうことが前提ですよ。

江田教育改革担当課長 そうです。樋口委員が言われた、心豊かなという場合でございます。

樋口教育委員 そうすると、「活力ある」とし、「価値」は使わないほうがよろしいと思いますが、どうでしょうか。

垣内教育委員長職務代理者 では、その点について。

環境経済学などでは、トータル・エコノミック・バリュー（total economic value）、すなわち、総経済学的価値といったときには、当然市場で表れてくるユースバリュー（use value）、利用価値と、非利用価値が、両方入ってきますので、社会的便益を全部含めて「価値」という考え方もあります。

ただ、「価値」といったときに、いろいろな方がいろいろな思いを、お持ちですから、客観性が欠ける可能性もあるかと思しますので、私としては、伝統の継承のところに、「発展」とかそういう意味を少し膨らませていただければ十分伝わると思います。

この部分は非常にうまく書けていると思いますので、そこまでこだわるものではございません。

内田総務部参事 ありがとうございます。

高森教育委員長 細かいことから大きなことまであるのですけれども、この項目の順番で一つずついきます。

まず最初の、「温故創新とところざし」について、文言のところで表記の統一に当たるのではないかと思うのですが、「台東区の歴史、文化」という並列の関係が、その隣の行のところには、「伝統・技能」という、ここは並列点を使っていますけれども、これはどちらのほうがいいのかということがあります。並列点を使うのか、読点なのか。

それからその後ろの「ところざしを立て」というところですけども、ところざしを立てることは確かに大事なのですが、ところざしというのは変わっていくこともありますので、ここは継続的な意味を持たせようとするなら、「ところざしを持って」という表現はいかがかと思いました。「立てる」というのはスタートの段階です。「立てる」だけではなくて、ところざしをそのまま「持続」させていくという意味合いで「持って」という言

葉を使ったほうがいいと思いますが、いかかでしょうか。

また、「新たな価値の創造」については、「伝統・技能を継承、発展するとともに」としてしまえば、クリアすると思いました。

それから、次の「自立と支え合い」ですが、先ほど、「自己実現」という言葉をここにに入れてあるほうが、自己の確立とか自立という言葉でいいのでしょうかけれども、私もここにまとめてしまったほうがいいと思います。「生涯を通じて自立し、自己実現し、」その「他者を尊重し」というところを、他者だけではなくて自分の自を入れて「自他を尊重し」にしてはどうかと思います。他者だけではなくて、当然自分も大事にできなければいけないことです。特に子どもたちには、自殺やそういった問題がありますので、自分も大事にしてほしいと。他者も当然大事にしてほしい。ここは、自立の問題と尊重の問題と、ともに支え合うという問題と、これは並列になっていますけれども、私は特に問題はない気がいたします。それぞれ一人ひとりが自立をしていって、その自立した大人同士が、また共に支え合って生きていくのが社会だと思えます。ここは、自立と他者の尊重、支え合いというのは一緒にしておいていいのではないかと思います。

次の「教育における信頼と尊敬」という言葉なのですが、気になるのは、「教育における信頼」はわかるのですが、「教育における尊敬」とは一体何かと聞かれたときに、明確な答えが出しにくい。先生方が、教える側が教えられる側から尊敬されるような人間になってほしいという気持ちはありますけれども、あえてそれを強要するのはどうかと思います。私を尊敬しなさいというような意味合いが強い気がいたします。そういった意味では、「信頼と感謝」というような言葉でもいいと思います。下の文章を読めば、言わんとしていることはよくわかりますので、表現は、「教育における」という言葉がいいのか「教育に対する」という言葉がいいのか、その辺に違和感があります。

次の「自己実現と環境整備」も、環境整備という言葉が曖昧な意味があって、学習環境、学びの環境の整備という意味ですから、先ほど江田課長がおっしゃった「生活と学びの環境整備」とすれば、「自己実現」という言葉を入れなくてもいいのという気がいたしました。

最後、「絆と地域力」ですが、国の教育振興基本計画の参酌事項の4つのうちの3番目の、「学びのセーフティネットの構築」が、具体的な文言として、この5つには入っていませんが、もしかしたら最後のところに関わるのかという気がいたします。環境整備のほうに関わるのか、安心・安全なまちづくりという意味で地域力に関わるのか、このあたりは、何か明言をしておく必要はないでしょうか。

ここでは、台東区ではこの5つの項目を立てましたけれども、私は、国の基本方針の4つでいいと思うのですが、そのあたり、ご意見をいただきたいと思えます。

内田総務部参事 今の点につきましてお願いします。

江田教育改革担当課長 国の参酌事項の4つの項目についてですが、今、高森委員からご指摘のあった、「学びのセーフティネットの構築」ですが、今回の関連性として

は、4項目めの「自己実現と環境整備」の、学びの環境を整備するというのが、「ライフステージに応じた学びの環境を整備」であり、それを台東区では、台東区らしい学びのセーフティネットとして捉えております。

最後の「絆と地域力」は、国の参酌事項の「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」と、そのまま言葉を使っていますので、「自己実現と環境整備」が「学びのセーフティネットの構築」という関連で捉えているところがございます。

和田教育長 ただいま高森委員長から、「尊敬される」という言葉の使い方についてのご指摘がございましたが、これについて台東区あるいは日本の社会全体を今、見渡すと、教師と子どもたち、あるいは子どもたちも含めた保護者との関係が、非常に大きく変化しつつあり、ここに出ている文言とは真逆のような状況も散見されると思います。

というのは、やはり本来的に、指導をするということ非常に傲慢な言い方にとられるかもわかりませんが、やはり子どもたち、いわゆる教授する者と学ぶ者との関係というものが、非常に日本の場合には曖昧になってきている。むしろ、その仕切りが全然なくなってしまっているのだと感じることが多いと思います。

実際に今、台東区の中で、一般の区民の方々とお話をさせていただく中でも、今の教育の状況を見ると、取りようによっては非常に誤解を受ける言い方なのですが、その言葉をそのまま申し上げると、「子どもたちが先生を敬わなくなってしまっているよ。子どもたちだけではなく、親も敬わない。そういう傾向が非常に強いのではないか」と指摘がありました。

その方の場合には、むしろこれからは学校教育をよくするためには、教師を敬えというふうに言ったほうがいいのではないかという、聞きようによっては非常に極端な意味合いのことをおっしゃった方もおられるくらいでしたが、これは、当たらずとも遠からずのところ非常にあると感じております。

今回、事務局のほうで「尊敬される」という表現をしたのは、委員長からはご指摘があったのですが、尊敬しろという意味合いよりも、むしろ尊敬されるような人材を育てるべきではないかということで理解をいたしました。

したがって、尊敬されるような学識、そして人格を兼ね備えた教員を、台東区としては今後も育成しつくり続けていきたいという意味合いとして考えれば、この言葉自体は、必ずしも、委員長がおっしゃるように、言葉の言い回しは考えなければいけません。趣旨としては、私は賛成だと思っております。

樋口教育委員 すみません。その件に関して。

確かに、教育長の言われるとおりですが、英語で言うと「Look up to」といって「見上げる」、これを日本語で「尊敬」と訳している。ですから、いわゆる学校現場において教員ないしは保育士は、生徒ないしは保護者から見上げられる立場にならなければいけない。そのためには、やはり教師として、子どもないしは保護者に対して出すものをたくさん出して、それに対して、確かにそうですねと言われる能力を身につけなければいけ

ないという意味では「尊敬」でいいかもしれません。

だから、書くほうがそこをちゃんと理解しておけば、質問されたときにもちゃんと答えられるのですが、単に私と生徒は違うのだから、一方的に尊敬しろと言われると、尊敬するように指導するという逆の解釈もされます。今回の場合には、見上げられる人材をつくるのだというところで解釈されれば、まさにこのとおりでよろしいと思います。

和田教育長 おっしゃるとおりだと思うので、少なくとも尊敬しろというふうな意味合いには取られないように、十分配慮しなければいけないと私も思いました。

高森教育委員長 おっしゃるとおりです。ただ、このタイトルだけを見ますと、そのイメージが強いかという気はいたします。私は、むしろ、信頼され尊敬される人材を育成するのも大事なのですけれども、教える側の教師、保育士が、自覚と責任を持ってほしいと思います。それは、やはり一番大事なことで、先ほど学識と人格という話もありましたけれども、それがなくて尊敬はされないと思います。

それから、こちら側の態度、指導も大事だと思います。相手からの尊敬とか信頼よりも、まず、そこをしっかりと育てられた教員をつくるということが大事だという気がいたします。

信頼されるとか尊敬されるということはむしろ気にせずに、しっかりと確立した教師を育ててほしいという認識がありますので、どう評価されるか気にしてはいけないと思います。これを出してしまうと、何か迎合しているというか、尊敬されるのだったら何をしてもいいような、逆のイメージも出てきてしまうような気もします。ベクトルの問題ですけど。

樋口教育委員 もう一つ、先ほど申し忘れたのですが、「自立と支え合い」の文章ですけれども、「生涯を通じて自立し、他者」、委員長のお話から言うと「自他を」ですけれども、「尊重し共に支え合い、変化が大きい社会を生き抜く力を培います」と。この「生涯を通じて自立し」、「社会を生き抜く力」という文になりません。

この「生涯を通じて自立する」のは個人で、「生き抜く力を培っていく」のは、この台東区及びこの組織が区民に対してこういう力を培うようにしますという話ですから、この並列文が「自立し」の後のところは、その次の「支え合い」とは、同じ接続詞にはならないと思います。

内田総務部参事 その点は、文言整理をさせていただきたいと思います。

いろいろいただいたのですが、ぜひ、こういう機会ですので、他に何かございますでしょうか。

高森教育委員長 もう一つよろしいですか。セーフティネットに戻ります。国のほうで参酌をするようにといわれた、この学びのセーフティネットとは、具体的に何を言っているのでしょうか。

柴崎庶務課長 国のほうの参酌基準で、「学びのセーフティネットの構築」ということを挙げてございますけれども、具体的には、国の言葉で言うと「誰もがアクセスできる多

様な学習機会を」と言っております。

ですから、ここで表現している、「いつでも、どこでも、ライフステージに応じた」というところで、国の参酌、方針を踏まえた台東区としての記述として、この表現を使わせていただいたというところでございます。

樋口教育委員 社会コミュニティ論で言うと、このセーフティネットというのは、安全・安心、信頼し得る社会。ネットワーク社会というのは、我々の学問用語でセーフティネットという言い方を使いますけれども。国も多分、そこから来ていると思いますが、高度情報化社会におけるネットワーク社会は、セーフティネットであると捉えています。ですから、ネットワーク社会においていろいろ情報交換をしますが、やはりあるところでは規制をしなければいけないし、また、あるところでは自由に情報ツールを使い、情報交換させなければならない。そういうところに、よくセーフティネットという言い方をします。

保護者と学校と行政のセーフティネットは何かというと、お互いに信頼し合っているから情報交換でき、つまり学問的には、ネットワークをつくることができるという言い方をします。

高森教育委員長 例えば、支援が必要な子どもたちの学習環境とか、そういったことも含めてですね。

樋口教育委員 そうです。そういうときには、ではどこがやるかということ、行政がやるし、保護者も地域もやるし、学校も、どうやってやるかというのは、いつでも自由にできて、誰かが困ったということにはならない社会をセーフティネットといいます。

柴崎庶務課長 国の参酌基準についての補足でございますけれども、国のほうでは、確かにこの四つの基本方針を参酌して大綱のほうを策定と言っておりますが、あくまでも参酌は参考ということで、その地域の実情に応じて大綱は、記載する内容は総合教育会議で決定していいということになってございます。

ですから、今回の大綱（案）といたしましては、この大綱（案）全体の中に国のこの四つの項目を広く受け止める形にいたしまして、五つの個別の項目については、台東区の実情に即して、こういうテーマ設定と表現にさせていただいたというところでございます。

末廣教育委員 今の話は、「自己実現と環境整備」というこの項目にセーフティネットの話も組み入れているのではないかと、僕は受けとったのですが、そうでもないのですか。

柴崎庶務課長 末廣委員のおっしゃるとおり、そのとおりでございます。そういう意図で、こういう表現にしております。

和田教育長 高森委員長からのご指摘は、学びの保障、セーフティネットということでの力点がこの中に見えにくいという、そういうお話だと思いますけれども、基本的には、今の教育格差の問題は、確かに私どもも十分認識しているわけで、これはもう教育委員会共通だと思います。言い方の中で、これは、いわゆる生涯学習の部分と同じ中に入っているような印象があったかと思いますが、私は今回、この「ライフステージに応じた」という言い方は、もっと広い意味で捉えていいのかなということで、これは賛成でござ

ざいます。

垣内教育委員長職務代理者 この2番の「自立と支え合い」ですけれども、これは最初に読んだときに思いましたが、よく地域包括ケアとか福祉のほうで自助・互助・共助・公助というふうに、こういう言葉をよく使います。

だから、「自立」といったときに、「生涯を通じて自立」というと、自分で自分のことができるというようなふうに捉えられるのではないか。文脈をよく読んでいただければ問題ないと思うのですけれども、言葉に誤解を招く可能性がありますので、先ほど樋口委員がおっしゃったような「自己実現」のほうが、より正確に伝わるのではないかと思います。

「自立」という言葉が、いろいろな含みがあるものですから、言葉遣いは変えたほうがいいという感じがいたしました。

それから、その次の「教育における信頼と尊敬」ですけれども、よく文章を読んでみると、おっしゃる趣旨は伝わると思います。当初、私はこれを見たときに、信頼と尊敬を強調するものなのかと思いましたが、中の文章を見てみると、明らかに「資質向上をたゆまず図り」とあって、その後に「人材育成を行います」とありますので、目標として「信頼され尊敬される人材を育成する」ということですので、ここは、大きな誤解は招かないという感じがいたしました。

セーフティネットの話で、私もすごく気になるのですけれど、よく文化の世界でセーフティネットというと、例えば図書館は、ある意味、学校以外の知的なインフラの最後の砦みたいなことを、よく言います。そういうことから考えると、この4番目は重要です。それから非常に重要な部分は、この5番目の「絆と地域力」のところだと思います。

「地域力を高めます」とさらっと書いてあるのですけれど、ここにはいろいろな、教育だけではない文化的な仕組みとか、ご近所さんとか、町内会とか、いろいろな形でこの学びの機会を提供することによって、最終的に最後の砦をつくっているのが、この台東区のやり方なのではないかと思われるので、この4番目と5番目で国の学びのセーフティネットの部分は、かなりカバーできるという感じがいたしました。

神部次長 4番目の「環境整備」の表現が、「心豊かに生涯を送れるよう」と、生涯学習的な意味合いが強くとられてしまいますので、教育格差の面もくみとれるような表現に書きかえたいと思っております。

内田総務部参事 今日は幾つも、いろいろご意見をいただきました。文字にすると、いろいろな思いがあったり、見えるところと見えないところがあると思います。

今日、幾つかの表現、その考え方ももちろん裏にあるのですが、表現についてご指摘をいただいております。確認をさせていただきたいと思うのですが、5項目の中の「温故創新とところざし」の部分については、継承することだけではなく、「発展」という意味も含めたほうがいいのではないかというご指摘をいただいたのですが、そういう文言の整理でよろしいでしょうか。

(異議なし)

内田総務部参事 次に、こころざしを「立て」という部分については、「立て」はスタートだということなので、こころざしを「持って」というようなご指摘もありました。この辺は、いかがでしょうか。

江田教育改革担当課長 こころざしを「立てる」というのは、やはり学校教育のスタートのイメージがあります。「持って」だと、学校教育が終わって大人になってもというようなところがあると思いますので、もし委員の皆さんが「持って」のほうがよければ差しかえたいと思います。

和田教育長 私も当初、先ほどご指摘いただいたときには、なるほどと思ったのですが、「こころざしを持って」とすると、その述語が「進めます」につながってしまいます。むしろ、「こころざしを立て」というのは「創造する」ということに、本来はかけている言葉なので、読み方なのでどちらが正しいとは言えないかと思うのですけれども、ニュアンスとしては、より誤解のないように、つくっていったほうがいいのではないかと思います。

内田総務部参事 「こころざしを立て」ということは「立志」という意味合いもあります。

樋口教育委員 立志だからね。

和田教育長 そうですね。「立て」ということで。そのほうがいいと私は思います。

内田総務部参事 次に、二つ目の「自立と支え合い」の部分で、「生涯を通じて自立し」という表現だったのですが、「自己実現」ということでご指摘をいただきましたが、これは文言整理としては「自己実現」、その他、言葉としては「自己確立」とかがありますが、それでよろしいですか。

樋口教育委員 通常「自己実現」のほうがよろしいと思いますけどね。

内田総務部参事 では、「自己実現」ということで文言整理をさせていただきたいと思っています。

次に、「他者」というところも、「自他を尊重し共に支え合い」というご指摘をいただいておりますが、これはいかがでしょうか。

樋口教育委員 「自他」でよろしいかと思えます。

内田総務部参事 「自他を尊重し共に支え合い」ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

次に、三つ目の「教育における信頼と尊敬」の「尊敬される」という部分に、いろいろなご議論をいただいたのですが、垣内委員のほうからも、きちんと読むと内容は分かるというご指摘もいただいたのですが、この辺の表現は、人材育成を行う、要するに、資質向上をたゆまず図りという思いと人材育成を行いますという教育委員会の思いも、方向性も含めて「尊敬される」という表現にしているということなのですが、この表現は、このままだでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

内田総務部参事 では、このままの表現とさせていただきます。

高森教育委員長 すみません。それから1カ所、気になったところがあります。「地域からより信頼される」になっているのですけれども、「からより」がつながってしまっているように見えて、「より」という言葉を他の表現に置きかえられないかなど。平仮名が連続しているから、もしくは、「より」を取ってしまうか。

内田総務部参事 では、「保護者、地域から信頼され尊敬される」というようなつながりでどうでしょうか。

高森教育委員長 なくてもいいのでしょうか。

和田教育長 すみません。「より」を取ってしまいますと、今は信頼も尊敬もされていないということになります。「一層」という言葉は必要だと思います。

高森教育委員長 もうちょっと、やわらかいほうがいいです。

和田教育長 もっといい言葉ですか。「さらに」ですか。

内田総務部参事 「より」とか「一層」とか、そのような表現ということによろしいですか。

高森教育委員長 ちょっと強いですね、「一層」というと。

樋口教育委員 じゃあ「さらに」。

内田総務部参事 ここは、そのような趣旨ということで、時間をかけさせていただいて文言整理をさせていただいていいでしょうか。

垣内教育委員長職務代理者 点を入れたらどうですか。

高森教育委員長 「地域から」の後に点を入れたらどうでしょうかと。

樋口教育委員 「さらに」なら。

高森教育委員長 「さらに」は、今まで信頼されているけれども、さらに信頼されるという。今まで信頼されているけれどとなってしまいます。

樋口教育委員 いや、だから「より」は比較級は同じですよ。今以上にという話だから、同じようなものです。

高森教育委員長 今以上にね。

樋口教育委員 では、それは考えましょう。

内田総務部参事 では、ここは仮置きさせていただいて。

あと、片仮名とか横文字の部分このまま、今の時代の流れもあって、こういう表現をこれから使わせていただくということでよろしいですか。

(異議なし)

内田総務部参事 あと、学びの環境は、これでよろしかったでしょうか。

高森教育委員長 これは、セーフティネットという言葉にしなければだめですかね。

神部次長 あと、誰でも平等に受けられる学びの環境づくりみたいな意味合いのことを入れたいと思います。

垣内教育委員長職務代理者 この点、学びのセーフティネットといったときに、多分、

文部科学省は学校のことを主に念頭に置いているかと思うのですけれども、今は世の中の大きな流れの中で、結構、学校を卒業した後、また勉強をしたりしなくてはいけない状況に追い込まれる方々もいて、そういう方々へのこのセーフティネットというのも、必要です。

だから、「一人ひとりが心豊かに充実した生涯を送れる」という部分は、学校だけではない部分も含まれていて、しかも学校の部分も含むということなので、そんなに大きな問題がないように、私は思いました。

特に今、学校でいろいろな問題があるということも、少し入れ込めば、ここで十分、生活と学びの環境整備でいけるのではないかと思います。

内田総務部参事 それでは、漏れたところもあるかもしれませんが、文言で幾つかご議論をいただいた部分で、今、確認をさせていただいた形にさせていただきたいと思います。

大変貴重なご意見をいただいているのですが、大綱（案）として、この全体像としては、この構成でよろしいでしょうか。

樋口教育委員 1点、高森委員長が言われた1行目の句読点と中黒の使い方があります。

内田総務部参事 「歴史、文化」のところの句読点と「伝統・技能」の中黒ですが、これは、使い分けていらっしゃるのでしょうか。

江田改革担当課長 はい。

樋口教育委員 これはこれでよろしいということでしょうか。

江田改革担当課長 はい。

内田総務部参事 歴史と文化は別々だけど、伝統と技能は近いので中黒だという表現にしているということですか。

江田改革担当課長 はい。そのとおりです。

内田総務部参事 その辺はいかがでしょうか。

高森教育委員長 さらっと読んでしまえば、誰も気づかなかったと思いますが、歴史、文化は並列ではないということですね。伝統・技能は非常に近いということですね。

内田総務部参事 そうですね。歴史と文化は独立したそれぞれの考え方で、近いものもあるけれども、異なるということですね。

垣内教育委員長職務代理者 通常は、伝統・技能とは言わないですね。普通は伝統を継承なのですけれども、台東区の場合は技能の部分が非常に強いので、そこを強調したかったというふうに理解しました。

高森教育委員長 なるほど、意図的にですね。

内田総務部参事 それでは、構成はこれでいいということよろしいでしょうか。あと幾つか今、確認を取らせていただきましたが、その辺を事務局で文言の整理をさせていただいて、この大綱（案）という形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

（異議なし）

内田総務部参事 それでは、ご了承をいただいたということで、文言の一部整理が残っ

ている部分につきましては、事務局のほうでまとめて、早急に各委員に確認という形でお送りさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は、本当に長い時間、いろいろご議論いただきましてありがとうございました。

それでは、文言整理の了承後ですが、この大綱（案）につきましては、今後、区議会に報告をさせていただきます。

また、その後、広報とホームページ等を使って、台東区が新たにつくったこの大綱（案）については、区民の方に周知活動をさせていただきます。

その他、今日ご不明な点がありましたら、どうぞ。何かありますでしょうか。

（なし）

内田総務部参事 それでは、大変長い時間、貴重なご意見をありがとうございました。
第2回台東区総合教育会議を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

午後2時01分 閉会